新聞経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所 理事長 一 杉 逸 朗 静岡市葵区追手町1-13 TEL 054-250-8750 FAX 054-250-8770

2018年7月25日

~静岡県内主要産業の四半期見通し調査(2018年7~9月期)~

貿易摩擦など不透明感あるも 県内景気は総じて緩やかに回復

米中貿易摩擦の世界経済への影響が懸念される中、県内企業の今夏ボーナス支給額は約4割の企業で前年を上回るとみられ、所得環境の堅調さがうかがわれる。

今後の見通しについては、工作機械や民生用電器部品、情報サービスなどをけん引役として県内景気は底堅いと見込まれ、貿易摩擦の影響や為替動向など不透明感があるものの、総じて緩やかな回復が続く見通し。

なお、業種ごとの7~9月期の業界景気見通しは、主要20 業種のうち「民生用電器部品」が『やや上昇』で、残る19業 種が『横ばい』。

『好調』が1業種、『順調』が3業種、『普通』が9業種、『低調』が7業種となる見通し。

調	業界景気
查	現見通
項目	通 し
業	$\widehat{4}$ $\widehat{7}$
I	(4) 7 5 5 6 9 月
種	月 月
製茶	⇔ → ⇔
食品・飲料	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
家 庭 紙	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
産業用紙	∞ → ∞
工作機械	$\circ \rightarrow \circ$
民生用電器部品	
自動車部品	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
二輪車部品	∞ → ∞
建 設	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
住 宅	∞ → ∞
大型小売店	∞ → ∞
食品スーパー	∞ → ∞
自動車販売	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
家電量販店	∞ → ∞
運輸・倉庫	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
情報サービス	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
外 食	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
観光・レジャー	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
リ ー ス	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
人材派造	\bigcirc \rightarrow \bigcirc

担当: 主任研究員 岩間 晴美

今月の定例調査 2018年7~9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

貿易摩擦など不透明感あるも、県内景気は総じて緩やかに回復

米中貿易摩擦の世界経済への影響が懸念される中、国内景気は、輸出が緩やかに拡大し、企業収益は高水準を維持するなど回復基調にある。県内の産業景気は、個人消費に力強さが欠けるものの、今夏ボーナス支給額は約4割の企業で前年を上回るとみられ(10**頁ウォッチング**)、所得環境の堅調さがうかがわれる。

今後の見通しについては、工作機械や民生用電器部品、情報サービスなどをけん引役として県内産業景気は底堅いと見込まれ、貿易摩擦の影響や為替動向など不透明感があるものの、総じて緩やかな回復が続く見通し。

(1) 業界景気の現況について(2018年4~6月期)

県内産業(主要20業種)の現況(2018年4~6月期)は、『好調』業種が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「運輸・倉庫」「外食」「観光・レジャー」「リース」の10業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「食品スーパー」「家電量販店」の7業種で、『不調』の業種はなかった。

前回調査との比較では、「観光・レジャー」が『低調』から『普通』に1ランク上昇し、「家電量販店」が『普通』から『低調』に1ランク低下した。

(2) 業界景気の見通しについて(2018年7~9月期)

2018年7~9月期の景気見通しは、全20業種のうち、猛暑の影響により北日本を中心 にエアコンの需要増加が見込まれる「民生用電器部品」が『普通』から『順調』へ『やや 上昇』、残る19業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』19業種のうち、『好調』が続くとみられるのは、内外需ともに堅調な「工作機械」の1業種。

『順調』のまま『横ばい』が続くのは、クラウド化でシステム等管理運営受託の伸長が 続く「情報サービス」、製造業や介護分野で人手不足感が高まる「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、水産缶需要が底堅く推移する「食品・飲料」、新設備が徐々に増産に向かう「家庭紙」、欧米向け輸出が堅調な「自動車部品」、公共工事の案件が続く「建設」、軽自動車が好調を維持する「自動車販売」、飲料や電気機械の荷動きに期待がかかる「運輸・倉庫」、夏の季節商品が伸長すると予想される「外食」、需要期だがガソリン高や自然災害の影響が懸念される「観光・レジャー」、消費増税への対応で商業機器の案件増加が見込まれる「リース」の9業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、贈答需要が低迷する「製茶」、コスト上昇が懸念される「産業用紙」、欧米市場の回復感が鈍い「二輪車部品」、貸家市場に停滞感が漂う「住宅」、他業態との競争が激化する「大型小売店」、水産品の入荷不足が心配される「食品スーパー」、パソコンやデジタルカメラがスマートフォンに需要侵食される「家電量販店」の7業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

	年 次 2			201	5年		201	6年		2017年			2018年		
	四半期 III			Ш	IV	I	Ш	III	IV	I	П	III	IV	I	 (今回調査)
対象	対象月(○は調査月) 7			7 ~ ⑨	10~12	1~③	4~⑥	7~9	10~12	1~③	4~6	7~9	10~12	1~③	4~⑥
		好調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	(順調	\bigcirc	3	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2
	種	普通	\bigcirc	5	7	7	7	7	6	8	8	9	8	10	10
	数	低調	•	11	10	10	10	10	11	9	8	8	9	7	7
		不調	†	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
業	全業	種の平均	階級値	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85
業界景気		好調:	5												
気の		X) [][H]	0												
『現		順調:4													
況		川只 川川 ・ 午	7												
		普通:3													
				•							_	—		—	—
		低調:2				• 	• 								
	不調:1		1												
業		上	₹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
景気	(業	やや上昇	昇 1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	1	1
業界景気の『見通し』	種	横ばし	,\ →	20	20	19	19	20	18	20	19	20	18	18	19
見通	数)	やや下降	锋 🔪	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
し し		下阝	锋 ┪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年 3、 6、 9 、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6 月調査であれば 4 \sim 6 月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6 月調査であれば 7 \sim 9 月期)の見通しを示す。

回答企業…県内主要20業種(232社)

注3) 平均階級値は、好調:5、順調:4、普通:3、低調:2、不調:1とする、20業種の平均値。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。 調査時点…2018年6月上旬

2018年7~9月期静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調	業界景気		静岡	県	内	主	要 産	業	り見	通	L
查 項 目 業 種	現 況 (4~6月)	生産量 (対比伸び率)	売上高 (対比伸び率)	生産量 (伸び率)	売上高 (伸 び 率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向(前4~6月期対比)	製品価格の動向(前4~6月期対比)	受 注 残 (カ月)
製茶	⇔ → ⇔		_	_	→		均衡	適正	`*	→	_
食品・飲料	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	→	7	<i>></i> *	1		均衡	適正	1	→	0.5~1.0
家 庭 紙	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	→	→	<i>></i>	→		均衡	適正	7	→	0.1~1.0
産業用紙		→	→	*	\rightarrow		均 衡	適正	7	→	$0.1 \sim 1.0$
工作機械	$\Diamond \rightarrow \Diamond$	\rightarrow	→	→	\rightarrow		需要超過	過小	→	→	1.0~7.5
民生用電器部品	⊕ 1 0	→	→	<i>y</i>	1		均 衡	適正	→	→	1.0~3.0
自動車部品	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	→	→	→	\rightarrow		均 衡	適正	1	→	0.1~3.0
二輪車部品	₩ → ₩	→	→	→	\rightarrow		均 衡	適正	*	→	0.5~1.0
建設	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	_	1	_	1		均 衡	適正	*	→	4.0~12.0
住 宅	∞ → ∞	_	→	_	\rightarrow		均 衡	適正	→	→	1.0~8.0
大型小売店	∞ → ∞	_	→	_	\rightarrow	-	供給超過	適正	→	→	_
食品スーパー	∞ → ∞	_	→	_	\searrow	-	供給超過	適正	→	→	_
自動車販売	\bigcirc \rightarrow \bigcirc		1	_	1	-	均 衡	適正	→	→	_
家電量販店	∞ → ∞	_	→	_	1	-	供給超過	適正	→	→	_
運輸・倉庫	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	_	1	_	*		均 衡		1	→	_
情報サービス	\bigcirc \rightarrow \bigcirc		→	_	\rightarrow		需要超過		→	→	_
外 食	\bigcirc \rightarrow \bigcirc		1	_	\rightarrow	—	均 衡		1	→	_
観光・レジャー	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	_	1	_	\rightarrow	-	供給超過	_	*	→	_
リース	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	_	→	_	\rightarrow	-	_	_	_	_	_
人材派遣	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	_	*	_	1	0	需要超過	_	→	→	
〈特別調査	2018年7~12月	期	半期見	通し〉							
家 具	∞ → ∞	`*	`	`*	``	0	供給超過	過多	Я	→	0.5~1.0
楽器	• - •	→	→	→	→	0	均 衡	適正	→	→	_

表の見方と注意

業界	景気の現 況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好	調 🔘	上 昇 ₹	非常に増加・上昇 (+10%以上)	100∼90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順	調 〇	やや上昇 🖊	増加・上昇/(+3~+9%)	89~80% 🔾	需要超過	過少
普	通 ⁽⁾	横 ば い →	横 ば い (+2~△2%) →	79~70%♦	均 衡	適 正
低	調	やや下降 🔪	減 少 ・ 下 降 🔪 (△3~△9%)	69~60% •	供給超過	過多
不	調 🛨	下 降 🐿	非常に減少・下降 △ (△10%以下)	59%以下●	非常に供給超過	非常に過多

⁽注) 特別調査(家具、楽器) は半期ベース ($1\sim6$ 月期の現状と $7\sim12$ 月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。 半期調査対象企業… 2 業種の企業14社。

主要業種の現況と7~9月期の景況見通し

業	** H T _	という という はなのった ロス 直を開西は上を回え
業種	業界天気	水出し・氷出し緑茶のアピールで、夏季需要拡大を図る
製	→	(現 況)・製茶問屋の売上高は、前年並みとなった模様。一番茶の生産量は前年をやや上回ったが、上級茶の需要が伸び悩む中で供給が増えたため、単価は前年を▲2割程度下回り過去最低水準となった。 (見通し)・製茶問屋の売上高は前年並みとなる見通し。中元などの贈答
茶	•	需要が低迷する中、近年定着しつつある「水出し緑茶」の需要拡大に期待がかかる。暑さで寝苦しい時期、カフェイン抽出をさらに抑えて不眠症に有効とされる「氷出し緑茶」も併せて、閑散期とされてきた夏季の需要掘り起こしに注力。

業種	業界天気	県内食料缶メーカーは、製造コスト増に伴い収益が悪化
食品・飲料	□□□	 (現 況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、ブームとなっているサバ 缶の売上が好調で、前年を+2~3%上回った模様。一方、県内主力のツナ缶生産量は、タイなどの海外生産の増加に伴い、前年を▲5%程度下回ったとみられる。 (見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、健康志向から水産缶需要が堅調に推移し、前年を上回る見通し。ただし、キハダマグロなど魚価の上昇に伴い製造コストが上昇しており、収益は悪化するとみられる。飲料缶類は、長期予報では高めの気温が予想されており、生産量は前年を上回る見通し。

業種	業界天気	トイレ紙は高付加価値製品の取扱い強化へ
家	0	(現 況)・家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙は、 新工場の稼働が続いたものの、全体の生産量は前年並みと なった。価格は横ばいで推移したが、コストは高止まりして いる。ティッシュは、生産量、価格とも前年並みで推移。
庭	→	(見通し)・家庭紙の生産量は、前年をやや上回る見込み。再生トイレ 紙は、前期稼働した新設備が徐々に増産に向かう。価格は、
紙		全般的に安定的とみられるが、高付加価値製品の取扱いを強 化するメーカーが増えると見込まれる。ティッシュの生産量 は前年並みとみられ、コスト増に見合う値上げが期待される。

業種	業界天気	段ボール原紙は需要堅調、飲料向けなどの伸長に期待
産業用紙	• →	(現 況)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙の生産量は、前年をやや上回った。加工食品向けなどが堅調で需要は安定的に拡大し、わずかだが価格も上昇。白板紙は前年並み。製造コストは高止まるも販売価格は横ばい。(見通し)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙の生産量は前年をやや上回る。平年より暑い日が多いと見込まれ、飲料向けなどの需要が伸びそう。加工食品向けや通販向けも底堅く推移する見通し。白板紙は前年並み。コスト上昇に伴う値上げを模索しているが悲観的な見方も根強い。

○好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が4~6月期、下段が7~9月期

業種	業界天気	中国向けに陰りがみられるものの、受注は高水準で推移
工作機械	o ↑ ○	 (現 況)・全国および県内の受注額は、前年をやや上回って推移した模様。内需は自動車向けがけん引したことから、前年実績を+5%上回って推移した。外需も、中国向けの減少を他地域でカバーし、前年並みで推移した。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年並みで推移する見通し。内需は自動車向けが安定していることに加え、自動化・合理化投資が追い風になりそう。外需は、メインの中国向けに陰りがみられるものの、北米・欧州向けが堅調なことから、前年並みは確保できるとみられる。

業種	業界天気	家庭用エアコンは、猛暑の影響により前年を上回る見通し
民生用電器部品	□→○	 (現 況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、5月から全国的に気温の高い日が続いたことから、前年を+5%程度上回ったとみられる。一方、冷蔵庫の出荷台数は、シェア争いが激化し、前年をやや下回った模様。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、猛暑の影響により北日本を中心に需要増加が見込まれ、前年を上回る見通し。業務用も都内の再開発工事向けで底堅い需要が見込まれる。冷蔵庫は、高齢世帯をターゲットとした、使い勝手を高めた新商品の投入により、前年実績を確保できる見込み。

業種	業界天気	欧米向けなど輸出が堅調、県内生産量は前年並みで推移
自動車部品	□→□	 (現 況)・全国の自動車生産台数は、前年実績を+2~3%上回った模様。国内販売は、登録車が伸び悩んだが、欧米向けを中心に輸出が堅調に推移した。県内部品メーカーの生産量は、前年をわずかながら上回って推移した模様。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年をわずかながら上回って推移する見通し。国内販売は、登録車、軽自動車ともに前年並みを予想。一方、輸出は、欧米向けを中心に前年を上回って推移するとみられる。県内部品メーカーの生産量は、前年並みを確保する見通し。

業種	業界天気	欧米二輪市場の回復感鈍く、県内部品生産は前年割れ
二輪車部品	•	 (現 況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を割り込んだ模様。需要が高まる原付2種や大型人気モデルの生産は堅調だが、主力市場の北米・欧州が盛り上がりに欠いた。県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移した。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年水準を下回って推移する見通し。一部の人気新型車の生産が底支えするものの、欧米向け輸出の回復感は総じて鈍い。完成車メーカーで工場再編に伴う生産調整も見込まれることから、県内部品メーカーの生産量は、前年実績を若干割り込むとみられる。

[○] 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が4~6月期、下段が7~9月期

業種	業界天気	公共は前年並み、民間は商業施設が回復し前年を上回る
建	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	(現 況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。県の発注は 堅調だったが、国関係と市町が前年を割り込んだ。民間の工 事費予定額は、前年を上回った模様。中部地区で大型の宿泊 施設が着工したほか、メーカーの工場案件も多くみられた。 (見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みとなる見通し。東部の高 規格道路関連工事や、市町の学校修繕工事が進むとみられる。 民間の工事費予定額は、前年を上回る見通し。前年は、商業
īX		施設の着工数が四半期ベースで6年ぶりの低位推移となったことから、反動増が予想される。

業種	業界天気	持家は前年比微増も、貸家は市場に停滞感漂い前年割れ
住宅	→	(現 況)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回った模様。1千戸/月程度の着工水準を維持したとみられる。貸家も、西部地区で着工が増え、前年を上回った模様。分譲も、中部で大型分譲マンションが着工するなど、前年を上回る見込み。 (見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや上回る見通し。2019年10月に予定される消費増税の影響で、徐々に駆け込み需要が増えていくと想定される。貸家は、市場の停滞感から地主の動きは鈍く、前年をやや下回る見通し。分譲は、着工戸数の少なかった前年と同程度で推移する見通し。

業種	業界天気	百貨店は夏物衣料が下支えし、前年実績を確保する見通し
大型小売店	∞	 (現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、催事で食料品が堅調だった一方、衣料品やカバンなどの身の回り品が前年を下回った。総合スーパーは農産品の単価下落で、主力の飲食料品が伸び悩んだ。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移する見通し。百貨店は、猛暑でクールビズ商材など夏物衣料が下支えし、前年実績を確保する見込み。総合スーパーは、生鮮品を扱う他業態との競合が強まっているため、前年をやや下回るとみられる。

業種	業界天気	水産品の入荷不足が懸念され、前年をやや下回る見通し
食品スーパー	•• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 (現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った。農産品は、豊作だったキャベツや玉ネギなどの単価が下落し、販売額を押し下げた。水産品は、歴史的な不漁になったサクラエビの販売が伸び悩んだ。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。トマトなど夏野菜や季節の果物類を中心に、農産品の販売額は前年並みで推移する見通し。水産品は、イカなどの不漁が見込まれ、入荷不足が懸念される。肉類は、国産の牛肉や豚肉の価格高止まりが続くとみられる。

○好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が4~6月期、下段が7~9月期

業種	業界天気	新型車投入で、軽中心に前年を上回る見通し
自動車販売		 (現 況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲3%下回った。登録車は、完成車検査問題の影響があった上、16年末発売のSUVの新型車効果が薄まり、前年比▲8%の減少。軽自動車は、主力モデルが好調に推移し、前年を+5%上回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年水準を確保する見通し。各メーカーが投入するセダンやSUVの新型車による押し上げ効果が期待される。軽自動車も、燃費不正問題のマイナス要因が薄れ、新型オフロードカーや新規車種の投入で引き続き好調を維持する見込み。

業種	業界天気	4 Kテレビに加え、エアコンや扇風機の需要が拡大
		(現 況)・県内の家電販売額は、前年並みで推移した模様。薄型テレビ
		の販売額は、サッカーW杯特需で押し上げられ、前年を+1
家	600	割ほど上回った。一方、調理家電や掃除機は、高機能機種へ
電		の買い替え需要が一巡し、前年をやや下回った。
量	→	(見通し)・県内の家電販売額は、前年をやや上回る見通し。薄型テレ
販		ビは、引き続き4Kテレビへの買い替え需要の増加が見込ま
店		れ、前年をやや上回る見通し。エアコンや扇風機は、猛暑で
		需要拡大が見込まれる。パソコンやデジタルカメラは、スマー
		トフォンによる需要侵食が続き前年割れとなる模様。

業種	業界天気	倉庫の入出庫高は、前年水準を確保する見込み
運	0	(現 況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や紙・パルプ、食料品 などが堅調に推移し、前年水準をやや上回った模様。普通倉 庫の入出庫高は、電気機械や飲料などの荷動きが鈍く、前年
輸・倉	-	並みの水準にとどまった。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、ウエートの高い輸送用機器や食料
庫		品などが堅調に推移するとみられ、前年をやや上回って推移 する見通し。倉庫の入出庫高については、暑い日が続くと予 想されることから、飲料や電気機械の荷動きに期待がかかり、
		前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	クラウド化でシステム等管理運営受託の伸長が続く
情報サービス		 (現 況)・全国の売上高は、前年並みの水準で推移した。受注ソフトは大型開発案件が一服して前年を割り込んだが、クラウド化の進展で管理運営が堅調。県内は、官公庁案件や製造業、金融機関の基幹システム開発が堅調で、前年並みとなった。 (見通し)・全国の売上高は、前年並みとなる見通し。クラウド化を進めるユーザー企業が増えるため、受注ソフトからシステム等管理運営受託へのシフトが進むとみられる。一方、技術者不足は深刻で、首都圏からの案件は多いものの、SE不足ですべての案件には対応できない状況が続くと予想される。

○好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が4~6月期、下段が7~9月期

業種	業界天気	夏の季節商品に期待かかるも、猛暑による食欲低下が懸念
外		(現 況)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや下回った模様。外食需要は堅調だが、前年の大河ドラマ特需の反動で県西部地域が落ち込んだことや、サッカーW杯を自宅でテレビ観戦する人が増えて、6月後半の夜の外食需要が伸びなかった。
食		(見通し)・県内の主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見通し。 「暑くなる」との長期予報が出されており、前年と同様に冷 たい飲料や冷やし中華、うなぎ蒲焼きなどの夏の季節商品の 伸長に期待がかかる。ただし、猛暑が続くと食欲が低下する ため、来店客数にはマイナスに作用する懸念もある。

業種	業界天気	燃料価格の高止まりや自然災害の発生による旅行意欲の低下が懸念
観光・レジャー	□□□	 (現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った模様。国内需要は安定しており、4~6月はJRグループの大型宣伝企画のプレキャンペーンが開催され、新しい宿泊旅行商品が投入されたことでプラスになった。 (見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見通し。国内需要は、ガソリン価格の高止まりや、大阪北部や千葉での地震、西日本豪雨などによる旅行意欲の低下が懸念材料。民泊は登録件数が少なく、民宿やペンションへの影響は軽微なものにとどまるとみられる。

業種	業界天気	消費増税に備えたPOSレジ入れ替え案件が伸長
		(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みとなった模様。製造業を中心に設備投資意欲が高まっており、リースの利用件数
IJ	0	は増加したとみられる。機種別では、情報通信機器や自動車
١.	→	が堅調に推移した。
		(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年並みとなる見通し。2019 年10月に予定される消費増税への対応で、POSレジの入れ
l ス		替えを実施する小売業者が増えるため、商業機器で案件の増
		加が期待される。一方、事業者間では競合案件の増加が見込 まれ、厳しい収益環境が続く見通し。

業種	業界天気	製造業や介護分野で人手不足感が高まる
人材派遣	○→○	 (現 況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回った模様。 営業や製造業などの分野で旺盛な需要が続いた。一方、供給 サイドでは、思うように人材を確保できず、需要ほどには実 績が伸びなかったとみられる。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回って推移 する模様。製造業や介護分野で人手不足感が高まっており、 引き続き高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、人 材確保が難しく、マッチングは思うように進まないとみられ、 伸びは限定的となる見通し。

○好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が4~6月期、下段が7~9月期

業種	業界天気	住宅着工増に期待するも、一部に大手製造小売出店の影響も
家 具(半期ベース)	• · · •	(現 況)・県内の木製家具出荷額は、前年を下回った模様。全国の新設 1~6月期 住宅着工戸数は、前年を割り込んで推移しており、住宅購入 に伴う家具の需要も減少したとみられる。一方、仏壇メーカー などからの〇EM受注は堅調に推移した模様。 (見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年をやや下回る見通し。2019年7~12月期 10月の消費増税に伴う駆け込みで、新設住宅着工戸数と住宅 購入に伴う家具の需要は堅調な推移が予想される。一方、大手の家具SPA業者が県中部への新店舗出店を予定しており、一部の県内メーカーは苦戦を強いられる見通し。

業種	業界天気	海外への生産移転が進み、国内生産は減少傾向が続く
楽 器(半期ベース)	₩→<th>(現 況)・県内メーカーの楽器販売額は、前年をやや下回った模様。国 1~6月期 内市場は、管楽器は前年並みだったが、主力のピアノが低迷した。海外市場は、中国向け、欧米向けともに堅調だったが、海外生産移転が進んだことから国内生産は減少した。 (見通し)・県内メーカーの楽器販売額は、国内が引き続き伸び悩むとみ7~12月期 られるが、海外向けがけん引し、前年をわずかながら上回る見込み。中国でピアノや電子ピアノが伸びているほか、東南アジアや欧米も堅調な推移が期待される。ただし、現地生産が進んでいることから、国内生産は減少傾向が続く。</th>	(現 況)・県内メーカーの楽器販売額は、前年をやや下回った模様。国 1~6月期 内市場は、管楽器は前年並みだったが、主力のピアノが低迷した。海外市場は、中国向け、欧米向けともに堅調だったが、海外生産移転が進んだことから国内生産は減少した。 (見通し)・県内メーカーの楽器販売額は、国内が引き続き伸び悩むとみ7~12月期 られるが、海外向けがけん引し、前年をわずかながら上回る見込み。中国でピアノや電子ピアノが伸びているほか、東南アジアや欧米も堅調な推移が期待される。ただし、現地生産が進んでいることから、国内生産は減少傾向が続く。

○好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が1~6月期、下段が7~12月期

ウォッチング

今夏のボーナス支給額「増加」企業は、4割弱まで拡大

県内企業に、今夏のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答した企業は37.3%と、昨年冬(2017年12月調査:32.8%)を+4.5ポイント上回り、「増加」企業が拡大した。一方、「減少」は6.2%と、昨年冬(7.2%)を-1 ポイント下回った。

業種別にみると、製造業では、一般機械器具などを含むその他の製造業 (62.5%) や電気機械器具 (60.0%) で「増加」が 6 割を超え、全体で 41.2%の企業が「増加」と回答。 非製造業では、運輸・通信業 (73.7%) で「増加」が 7 割を超えたものの、飲食店などのサービス業 (13.0%) では 1 割超にとどまるなど、業種により差がみられた。

0% 60% 100% 20% 37.3 52.0 全企業(n=225) 6.2 4.4 製造業(n=102) 41.2 48.0 6.9 非製造業(n=123) 34.1 55.3 5.7 4.9 ■ 増加 □ 前年並み ■ 減少

図表 今夏のボーナス支給状況(正社員1人当たりの支給額)

調查要領:調查時点2018年6月、調查対象企業数608社、回答社数225社、有効回答率37.0%